

金剛院 NEWS

ながみね

舞踏家・長嶺ヤス子さん講演会、大盛況！

日本人として初めて本場スペインで大活躍した伝説のフラメンコ・ダンサーであり、

75歳を迎えた現在も現役舞踏家として活動を続ける長嶺ヤス子さんをお招きした講演会が開かれました。



「自由に・素直に・幸せに」と題した講演会は告知と同時に満席となりキャンセル待ちが多数出るほどの大人気でした。



司会「しいなまちみとら」田中さん(右)の紹介で登場すると会場からは大きな拍手が(左)。お花の帽子が華やかです(上)。講演後には抽選で著書や絵などのプレゼントも(下)



長嶺さんは福島県・会津若松のご出身。まず東日本大震災で犠牲になられた方々に会場全体で黙祷を捧げ、講演は始まりました。ご自身の幼少時代やフラメンコとの出会い、そしてスペイン留学時代へとお話は移ります。異国での修行にはいくつもの苦難や孤独があったそうです。「私は絶望すると、一切何もしないで寝ちゃうんです(笑)。でも不思議なもので、そうやっているうちに、いつも誰かに助けられたり、チャンスが巡ってくる。何か大きな力に守られていると感じます」と、ときにジョークも交えながらこれまでの人生を振り返りました。



また、真言宗のお坊さん65人が唱えるお経「声明(しょうみょう)」に合わせて踊り、日米両国で大成功を収めた「曼荼羅公演」の舞台裏など、めったに聞けないお話が披露されると

会場は興味津々になりました。



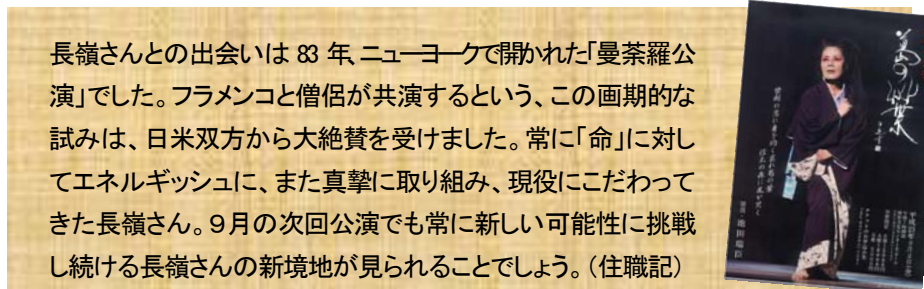
車で野良猫をたまたま轆いてしまっで以来、迷い猫や犬を飼い始め現在なんと160匹の猫と20匹の犬を福島で飼っている長嶺さん。

「私はたくさん子どもたち(猫や犬)の命を見送ってきました。命を救うことは、私にはできませんが、死は新しい命の始まりだということ、子どもたちから教わったのです」とお話を締めくくりました。

舞台を離れた素顔の長嶺さんはとてもおっとりした印象。終始笑顔で、お一人ずつ丁寧にサイン本を手渡す姿が印象的でした。



画家としても知られる長嶺さん。猫や犬をモチーフにした絵画としてのキャリアも20年以上。



長嶺さんとの出会いは83年、ニューヨークで開かれた「曼荼羅公演」でした。フラメンコと僧侶が共演するという、この画期的な試みは、日米双方から大絶賛を受けました。常に「命」に対してエネルギーに、また真摯に取り組み、現役にこだわってきた長嶺さん。9月の次回公演でも常に新しい可能性に挑戦し続ける長嶺さんの新境地が見られることでしょう。(住職記)